

30P1-am088

シロハツモドキ (*Russula japonica* Hongo) からの KDR 阻害活性化合物の探索
○藤原 龍太¹, 峰村 章平¹, 塩崎 智子¹, 鈴木 俊宏¹, 木下 薫¹, 高橋 邦夫¹,
小山 清隆¹(¹明治薬大)

【背景・目的】

近年, 癌による死亡率は上昇の一途をたどり, 1980 年代にはトップとなった. 臨床で使用されている抗がん剤の種類も増えて癌患者の生存率も上昇しているが, ほとんどが副作用などの問題を抱えている. そこで副作用が少ないと考えられている血管新生阻害薬に着目し, 新たな抗がん剤開発のシード化合物となる物質を天然資源から単離することを目指し KDR 阻害物質の探索を行った.

【実験】

KDR 阻害活性試験の結果, シロハツモドキ (*Russula japonica* Hongo) の CHCl_3 抽出エキスに活性が認められたため, 本サンプルの活性本体の探索のため, 各種カラムクロマトグラフィーを用いて分画を行った.

【結果】

シロハツモドキの CHCl_3 抽出エキスについてシリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて粗分画を行った結果, Fr. 1~Fr. 6 を得た. 再び KDR 阻害活性試験を行ったところ, Fr. 3, 4, 5 および Fr. 6 に活性が認められたので, 現在これらの分画から活性本体の探索を行っている.